

東日本大震災**救援募金**のお願い

米、野菜など支援物資も

募 **集** **ボ** **ラ** **ン** **テ** **ィ** **ャ** **第** **1** **1** **次**

大まかな活動計画

21日は、物資のお届け、被災地の実態視察
 22日は、物資のお届けと要望聞き取り
 23日は、昼まで 物資のお届け

日 **程** **9** **月** **2** **0** **日** **(** **木** **)** **夜** **発**
9 **月** **2** **3** **日** **(** **日** **)** **夜** **着**

救援募金 **377**万円

昨年3月からの総額 **ご協力に感謝します**

今回お願いしたい支援物資は、**米、野菜、靴下、下着、タオル、石けん、洗濯石けん、自転車、おもちゃ**などです。

衣類はご遠慮します。

第10次ボランティア会計報告

ニュース印刷代	18,630	
ボランティア保険加入	1,400	
救援物資購入・輸送費	83,550	
車借り上げ代、ガソリン代	43,463	
費用合計	147,043	募金

の残金は約8万円です。第11次ボランティアで活用します

購入した物資概略：米100キロ、じゃがいも・玉ねぎ・長ネギ各20キロ、きゅうり10キロ、Tペーパー400本、他。
 物資提供：米70キロ、じゃがいも60キロ、オムツ、一輪車、ロールピアノ、タオル、石けん、下着など。すべて現地に持ち込みました

港地区委員会 TEL 3455-0051

FAX 3455-0054
 メール jcp_minato@ybb.ne.jp

港区議団 TEL 3578-2945

FAX 3578-2947
 メール mail@jcp-minatokugidan.gr.jp



← カツオの水揚げ。石巻漁港

↓ 要望聞き取りと署名



← ミニバザーも好評

家の再建、復興住宅はいつ？ などなど…… 要望に変化が

第一〇次ボランティアでの仮設住宅要望聞き取りでは、要望に変化がでています。これまでは、「街灯をつけて欲しい」など具体的な要望が多かったのですが、今回の特徴は、「流された家の買い取りはどうなるのか」、「復興住宅をスピードを上げてつくって欲しい」、「高台移転というがいったい何時実現するのか（雄勝地域から逃れた方）」など要望が将来の生活設計に変わってきています。

すでに一年四ヶ月が経ち、「今」の問題だけでなく、どのように生きていくのかを真剣に模索しているのです。

こうした中、政府は被災地の医療費無料制度を九月末で打ちきろうとしています。その理由は、「被災者の自立を促すため」と言うのですから驚きです。

募金、物資提供など、ご連絡いただければ
 お伺いします。整理の都合上9月17日まで受け付けます

みなと民報

2012年8月 号外 日本共産党港地区委員会は東日本大震災へのボランティア参加を呼びかけると発表しました。発行 みなと民報社/海岸2-4-12/責任者/栗橋伸次郎

ボランティア報告会 9月12日(水) 午後2時～4時30分 資料代200円
 飯倉いきいきプラザ・和室 被災現地の実態を写真も使って紹介します

日本共産党 第10次ボランティア活動報告

7月13日~16日 8名参加

日本共産党港地区委員会は、七月十三日から十六日まで石巻市の「日本共産党 震災・救援センター」へ第十次ボランティア八名を派遣しました。

石巻到着は七月十四日四時です。仮眠を取り朝食。六時三〇分に石巻市内の被災視察をしました。

カツオの水揚げ 活気

石巻漁港で水揚げ現場を見ました。カツオが次々と揚がります（一面の写真）。人の力を感じます。九時に救援センターに入って、午前は「仮設・開成一二団地」へ物資のお届けとバザー、要望聞き取りです。日野の方々と一緒に。

仕事も家も無くなり、貯金を切り崩して日常生活している方が多く、「救援物資は本当にありがたい」と喜ばれます。食料はもちろんですが、日用品、消耗品も評判です。お届けした物資は、お米、シヤガイモ、玉ねぎ、長ネギ、トイレトーパー、洗濯洗剤、タオルです。ポリ袋に入れて渡します。

ロールピアノ くじ引き

集会室では日用品などの無料バザーです。こちらは自由に選んでもらいます。これと平行して、子ども向けの抽選会を行いました。今



東松島 解体後の空き地に 供養の献花



集会室でミニバザー



欲しい子集まれ



くじ引き 緊張の瞬間



ロールピアノ 当たった



水鉄砲で水やり

回は、「ロールピアノ」と「キックボード」です。キックボードは、希望者が一人だったので無抽選でした。「いつき君」Vサインで喜びすぐ乗り回していました。「ロールピアノ」は女の子四人が希望したため、抽選・くじ引きです。「あたるかな」、「はずれかな」くじを引く瞬間はいつも緊張します。当たったのは、ピンクのシャツの「みつなちゃん」でした。恥ずかしそうに喜んでいました。

「早く海に帰りたい」 雄勝地域の漁師さん

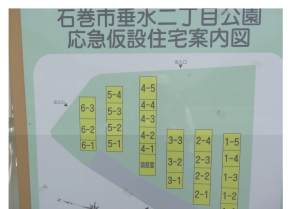
二日目・十五日は、港だけのボランティアとなり、河北地域にある三反走(さんだんばしじ)という小さな仮設での活動です。救援物資をまず各家庭に届けます。その後、ミニバザーです。雨の中、傘を差して集まってきました。やはり不足している日用品などを選んでもらいます。この仮設住宅は、雄勝地域の方々が住んでいます。雄勝地域は力キの養殖が盛んな地域です。稚魚の種付け作業が今始まっています。女

川町から北上した地域です。要望の聞き取りの中では、「もう二度と海の近くには戻りたくない」という方が、「海で仕事を早くしたい」という方がいました。どちらも、率直な考えなのだと思います。仕事を早く再開したいという方は、「河北の仮設住宅から、雄勝まで通うのは大変。雄勝に家と仕事を再建したい。しかし資金が無い」と語っていました。

水鉄砲 喜ばれる

三日目・十六日は、渡波地域の四つの小さな仮設住宅での活動です。テカテカの晴れで、気温は三二度。この夏一番の暑さです。救援物資をお届けし、要望の聞き取りをします。「仕事がない。働きたいけど・・・」狭い所で生活するのは息づまる。普通の生活がしたい」などが出されました。

持ち込んだ水鉄砲が大評判です。男の子がさつそく草花に水やりです。ホンワカします。今回のボランティア活動の大きな特徴は、①深夜に車で出



今年二月の「ボランティア報告会」の際、年配の方から次の意見が出されました。「朝から晩までボランティア活動は体力的に無理だけど、被災現地を一度、目に焼き付けたい。現場の実際を見て帰って、知人や地域の方々などにその内容を伝えて、風化させない取り組みをしたい。一日くらいはボランティアなら出来る」。

この声を受け無理のない日程とビジネスホテルの確保。被災現地の視察を計画しました。女川、雄勝、東松島地域の被災実態を目に焼き付けました。今後幅広く参加できる企画を立てていきます。